

島大生指導で「解けた！」

浜田・弥栄で勉強合宿

「勉強合宿」で島大生（中央）の指導を受ける中学生＝浜田市の弥栄会館で



浜田市弥栄町長安本郷の弥栄会館で19日まで、島根大教育学部の学生10人と地元の小中学生17人の2泊3日の「勉強合宿」が開かれた。周辺に学習塾がない児童生徒には夏休み

の宿題を仕上げる機会。教員を目指す学生は地域の大人たちが支える中山間地域の教育を知る場になる。学部と安城公民館の共催で2010年から続く。大学1、2年生が先

生役で小中学生に国語や数学（算数）、理科、英語などを1日5時間程度、個別に指導。うまく解けなかった方程式や目標を付せん紙に書かせて2学期以降も役立つようにするなど教え方を工夫した。

全員が会館に宿泊まりし、食事は地元婦人会が持ち寄った地元の米や野菜などで用意した。

学外で小中学生らと関わる島根大の必修科目「1000時間体験」の一環。公民館を通じて依頼を受けて毎年開催され、希望する学生が参加する。引率の諸岡了介准教授は「山陰

の教員は中山間地域の学校で教える機会も多く、地域と学校、児童生徒の実情を見聞きできるのは貴重だ」と話す。安城公民館は毎週月

曜日に、地域の大人が中学生対象の「塾」を開くが、岡本薫館長は「大学生との交流は得難い体験」と喜ぶ。

教育学部2年の金川茜里さん（20）は「授業形式と違い、子どもたちとどこでつまづいているのかが分かり、勉強させられる」と話し、市立弥栄中2年の島本秀介さん（13）は「教えてもらって良かった」と喜んでいた。

【横井信洋】